

# ウイルウッド®シート技術資料及び施工上の注意

## ①施工環境

- ウイルウッド®シートは表面が天然木素材となっているため、内装用途のみでご使用ください。(外部環境ではご使用できません)
- 高温、高湿、水漏れの環境での使用は避けてください。
- 施工時の室温は13℃～33℃が適温です。低温時は室内の温度を上げ、シートをドライヤーで温める等してから施工してください。
- 天然木につき木目柄によって要尺が多くなりますのでご注意ください。
- チリやほこりが多い場所で施工すると平滑に仕上がらないので、施工前には壁面、床面の清掃を行ってください。

## ②ウイルウッド®シート性能評価 (性能評価データは保証値ではありません)

### a. 表面磨耗試験 (JAS 特殊合板磨耗試験に準拠)

【試験方法】 向かい合った辺の間が100mmの八角形のものを作成、中央に7.5mmの穴をあけ試験片とした。試験片をテーパー式摩耗試験機の回転盤に固定し、研磨紙を片付けたゴム製摩耗輪2個を取り付け、試験片免状に加わる総荷重量はゴム製円盤を含め500gとして、100回の回転を行い、摩擦減量を求め、試験片の表面の変化を観察した。

【試験結果】 摩耗量0.027 (g/100回転) 摩耗は塗膜内であった。

### b. 鉛筆引っかき試験 (JAS 特殊合板鉛筆引っかき試験に準拠)

【試験方法】 ひっかき試験機を使用し750gの荷重で試験を行い、圧痕を観察した。このとき、凝集破損が認められなかった、最も硬い鉛筆の硬度を鉛筆硬度とした。

【試験結果】 3B

### c. 耐光性試験 (フェードメーター 20時間照射) ※ビニールクロスは40時間で行う

【試験方法】 UVカーボンアーク型フェードメーターを用いパネル温度63℃、相対湿度50%に設定して紫外線照射を行った。試験片の変色を分光測色計により測定し、色差を求めた。

【試験結果】 色差9.61(黄→茶)

### d. 2類浸漬剥離試験 (JAS 特殊合板2類浸漬剥離試験に準拠)

【試験方法】 1辺が75mmの正方形の試験片を作成し、70±3℃の温水中に2時間浸せきした後、60±3℃で3時間乾燥した後、剥離の様子を目視で観察した。

【試験結果】 周辺部分で台板(MDF)とシート最下層の紙との間で剥離した。

### e. 施工性試験 (JIS 壁紙施工性試験に準拠) → 接着試験

【試験方法】 幅25mm長さ200mmのシートを8種類の基材に貼り付け、シートを折り返して引っ張る。180°剥離強度試験 (JISK6854)

【試験結果】

基材	クロロレン系速乾接着材塗布 (N /25mm)
ラワンベニヤ	16.7
シナベニヤ	18.0
プラスターボード	14.8
ケイ酸カルシウム板	28.3
ステンレス	14.9
アルミニウム	16.8
銅板	15.1
アクリル	17.2

### f. 汚染試験 (JAS 特殊合板汚染試験に準拠)

【試験方法】 試験片(80×80mm)を水平に置いた後、下記の汚染源で巾10mmの線を引き、4時間放置した後、洗剤または溶剤を含ませた布で拭き取り24時間放置した後、試験片表面を目視観察した。(汚染源) 黒色速乾性インキ(黒色マジック)、赤クレヨン、青色事務用インキ(セーラー万年筆(株)社製、ブルー万年筆インク)

【試験結果】 黒色速乾性インキ:色はほとんど落ちたが、導管に色が残った。 赤色クレヨン:色はほとんど落ちたが、導管に色が残った。 青色事務用インキ:色はほとんど落ちたが、導管に色が残った。

### g. 耐熱性

【試験方法】 プラスターボードに貼り付け、70℃で1ヶ月放置後の接着力

【試験結果】 異常なし

### h. 耐ヒートサイクル性試験

【試験方法】 プラスターボードに120mm×120mmのシートを貼り付け-20℃冷却2時間、70℃加熱2時間を10回繰り返した。

【試験結果】 剥がれや著しい変色なし。

### i. 寸法安定性試験

【試験方法】 200mm×200mmのプラスターボードに200mm×200mmのシートを貼り付け中央部を200mm×200mmクロスカットし、100℃での加熱を2時間行いクロスカット部分の最大隙間を測定した。

【試験結果】 最大隙間0.2mm

### j. 耐湿性試験

【試験方法】 プラスターボードに貼り付け45℃、湿度95%で1ヶ月放置後の接着力。

【試験結果】 異常なし

### ③施工のポイント

#### a. 取り扱い上の注意

表面へ水分を付着させると本品が伸縮しやすくなりますので十分に気をつけてください。また、表面は天然木でできていますので水回りへのご使用はしないでください。製品は定尺サイズをロール状で梱包していますので、開梱して平面状にする時は剥離紙とシートが剥がれないようご注意ください。シート  
の表面を傷つけないように裁断し、巻き返し時には床面に引きずらないようご注意ください。表面は天然木素材を使用している為、三次曲面への施工はできません。ウイルウッド®シートは化粧フィルムの上に重ね貼りした場合、不燃認定の対象にはなりませんのでご注意ください。

※施工中に製品の欠陥を発見した場合は直ちに作業を中止していただき、当社までご連絡ください。尚、カットした製品の返品、また、三中以降の施工費のクレームはお受けいたしかねますのでご了承ください。また、製造元以外で塗装したものを使用した場合は防火認定の対象外となります。クレームもお受けいたしかねますのでご了承ください。

#### b. 施工上の注意

##### 1. 施工前作業について

ウイルウッド®シートをカットしたり巻き直したりする場合は、表面に傷が付かないよう養生された作業台の上で行なってください。また、天然木の特性により木目方向や柄合わせを考慮し貼り出し前に確認してください。

##### 2. 有効巾について

ウイルウッド®シートの有効巾は910mmです。粘着層巾は、離型紙両端の黒線より内側で925mm程度ありますが、黒線付近5mm程度は粘着力が弱い  
ため、その部分は避けて使用してください。

#### c. 下地の調整

##### 1. プラスターボード、ケイ酸カルシウム板下地の場合

下地のジョイント部を目立たないようにするため、4尺×8尺以上の下地材をご使用ください。3尺×6尺以下の下地材を使用される場合は足元の低い  
位置でジョイントをしてください。

##### 2. 次ページ「④貼付基材別下地処理について」をご覧ください

下地表面は平滑で乾燥している状態にする必要がある為、水分や油分、汚れ等を完全に除去してください。また、次ページの表を参考にシーラー、パテ  
処理をした後、プライマーをご使用ください。(突き合わせ貼りする場合は施工後に目開きする場合がありますので、ジョイント部にはプライマーを2～  
3度塗ってください) 吸い込みの激しい基材にはプライマーを塗布した後、乾燥させて重ね塗りをしてください。基材の固定が十分でない  
と下地のパテ等が動いて割れる場合があります。基材はしっかりと固定してください。木材(ムク材)、鋼、真ちゅう、鉛、塗装下地(金属板の錆止め塗装、アルミニウム合金板のアルマイト塗装を除く)等の基材へ貼り付けた場合、接着不良を起こすことがありますので施工をしないでください。

出隅部にはコーナービートやコーナーテープをご使用ください。

#### d. 接着糊

##### 1. ウイルウッド®シートを施工の際は下記の材料を併用してください

・パテ…基材のくぼみ、割れ、穴等を埋めて、基材を平滑にします。

推奨商品—ウォールパテ G・ウォールパテ S (ウォールボンド工業) / ロックポリパテ中目 (薄付タイプ) 2液混合型 ポリエステル系 (ロックペイント) /  
ロックポリパテ硬化剤エロ— (溶剤型)

・シーラー…基材表面の吸い込みを抑え、吸い込みを均一化して接着性を高めます。また、基材からアクやヤニ等も抑える効果があります。

推奨商品—シーラーセットアップ (ウォールボンド工業)

・プライマー…基材に塗布することでシートとの接着性を高めます。

推奨商品—390 クリーン (ウォールボンド工業) / M-66 (ノータープ工業)

品名	メーカー	商品名	使用方法	下地
パテ	ウォールボンド工業	ウォールパテ G ウォールパテ S	パテベラ付け。規定量の清水を入れ、粉末パテを散布し全体を 湿らす。直ぐにミキサーなどで攪拌、タレ落ちない程度の硬さ で均一なペーストに調整	石膏ボード ケイカル板等
	ロックペイント	ロックポリパテ中目 (薄付タイプ) 2液混合型 ポリエステル系 (溶剤型) ロックポリパテ 硬化剤エロ— (溶剤型)	ヘラ付け 硬化剤を混入 研磨可能時間 30～40分 (20℃) ロックパテ 100:2 硬化剤エロ— 十分混合して使用してください	金属板 アルミニウム合金板等
シーラー	ウォールボンド工業	シーラーセットアップ (水性)	ハケ・ローラー	ケイカル板等
プライマー	ノータープ工業	M-66	ハケ・ローラー ダマにならないように塗布	石膏ボード ケイカル板等 金属板 アルミニウム合金板等

#### e. 貼り付け

##### 1. これで大丈夫か? 貼り出し確認

シートを三中程度貼った後、商品に問題がないことを確認した上で作業を続行してください。問題のある場合には販売店までご連絡ください。

##### 2. スキージーを使用

施工にはスキージーを使用し、圧着を充分に行ってください。スキージーを使用される際は柔らかい布などを併用されることをお勧めします。シートと  
基材の間にエアが残っていると、施工後に表面に膨れが発生しますのでご注意ください。また、シートに強い力をかけて引き伸ばすと製品にダメージが  
加わります。三次曲面等への施工はしないでください。貼付時は指で触診しながら浮きが無いか確認しながら施工ください。

##### 3. ジョイント部の施工

ジョイント部の施工については、突き付け貼り施工の場合は目スキ等が発生する可能性がありますので必ず重ね断ち貼りで施工を行ってください。

##### 4. 石膏ボードを切らない

重ね切りを行う場合は石膏ボード等の下地基材を切り込まないようにご注意ください。目スキが発生する原因となります。

##### 5. 折り曲げる時の注意

シートを折り曲げて施工する場合、家庭用ドライヤー等で温めながら作業するとシワの発生を軽減できる場合があります。(木目と水平方向)

##### 6. シートに力が加えられないように注意

シワ防止のため、施工したシートの表面に力が加わらないようにしてください。特に建具へ貼り付ける際レバーハンドル等の金物周りにはご注意ください。

#### 7. 建物の構造に適した施工をお願いします

プレキャストコンクリート、ALC板などは建物の構造上、板の継ぎ目部分を振動の逃げ場にしていますので、これをまたいでシートを貼ると、膨れ、  
よじれ、割れなどが発生します。この様な場合、天然素材でできているシートでは防ぐことができません。

#### 8. 補修

軽微な表面の破損箇所は着色剤で補修を行ってください。着色剤→(例) かくれん棒・色鉛筆・ヤノイキャンパス等破損の程度によって部分的な  
貼り替えを行う必要がある場合は、発注時の予備をご使用ください。本品は天然素材の為、追加発注による貼り替えの場合、木目柄が合わない  
ので十分ご注意ください。尚、補修作業で改善しない場合は、専門の補修業者に依頼してください。

#### 9. 保管・輸送時の注意

保管時・輸送時等の間に粘着層と離型紙の紙間で若干の離型が起こる場合があります、それが筋となって現れる事があります。

#### f. 養生

##### 1. 施工後は強制換気を

施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。接着力は施工後1週間程度で高まります。また、施工時に使用したプライマーやシーラー  
等の臭いがかかり残りますので、強制排気をするなどして換気を十分に行ってください。

##### 2. 粘着性の強い養生テープは使用しないでください

粘着性の強いマスキングテープ (養生テープ) の使用は避けてください。尚、粘着性の弱いものであっても貼り付けたまま長時間放置しないでく  
ださい。粘着材が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。又、テープを剥がすときに壁紙を破損することがあります。

### ④貼付基材別下地処理について

#### 不燃下地

貼付基材 下地処理	プラスターボード	ケイ酸カルシウム板	ステンレス板	アルミニウム板	鋼板
前処理	ビス頭処理	ビス頭処理	ビス頭処理	ビス頭処理	ビス頭処理
表面清掃	異物除去	異物除去	サビ・油污れ・異物除去	サビ・油污れ・異物除去	サビ・油污れ・異物除去
パテ処理 (仕上げ用)	ウォールパテ G ウォールパテ S	ウォールパテ G ウォールパテ S	ロックポリパテ中目	ロックポリパテ中目	ロックポリパテ中目
表面研磨	#100サンドペーパー	#100サンドペーパー	#100サンドペーパー	#100サンドペーパー	#100サンドペーパー
シーラー処理	必要に応じて使用	シーラーセットアップ	なし	なし	なし
プライマー (完全乾燥)	M-66	M-66	M-66	M-66	M-66
接着補強	M-66	M-66	M-66	M-66	M-66

#### 一般下地

貼付基材 下地処理	ラワンベニヤ	シナベニヤ	アクリル板
前処理	ビス頭処理	ビス頭処理	ビス頭処理
表面清掃	異物除去	異物除去	異物除去
パテ処理 (仕上げ用)	ウォールパテ G ウォールパテ S	ウォールパテ G ウォールパテ S	使用不可
表面研磨	#100サンドペーパー	#100サンドペーパー	なし
シーラー処理	シーラーセットアップ	シーラーセットアップ	なし
プライマー (完全乾燥)	M-66	M-66	M-66
接着補強	M-66	M-66	M-66

### ⑤メンテナンス

#### a. 直射日光からの保護

表面は天然木素材ですので経年で変色していきますが、直射日光などの紫外線が当たる場所では、特に変色が早くなります。カーテン、ブラインド  
等の日除けを心掛けてください。

#### b. 汚れた場合

表面に塗装を施していますが、塩ビ系シートのように汚れを落とすことは困難です。汚れた場合は柔らかい布に水を付け固く絞った上、拭き取って  
ください。取れにくい場合は中性洗剤を薄く交ぜて拭き取った上、水拭きしてください。長い期間にわたって付着した汚れを取ることはできません。  
強い力で拭き取ると表面の単板を傷めますのでご注意ください。

#### c. カビや結露

結露や湿気が多い環境下においてはカビが発生する恐れがあります。カビは見た目だけでなく、アレルギーなどの人体に悪影響を及ぼすことがあり  
ますので注意が必要です。結露やカビが発生しないように換気に心掛け、風通しを良くしてください。